

# 平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	35130
政策名(章)	第5章 輝き魅力あるまちづくりを進めます	評価担当部	企画部
基本施策名(節名)	第1節 輝き魅力ある都市の創造	評価担当課	文化国際課
施策名	都市文化の創造と情報発信	課長名	江成 朱美

## 1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

うるおいのある個性的なまち、活気にぎわいあふれるまちは、新たな出会いと感動を与えてくれるとともに、ふるさとへの愛着心や市民としての誇りを育ててくれます。そのため、豊かな感性が響き合うさがみはら文化の創造が求められています。  
この「新たなさがみはら文化」の創造と振興を図るため、広い地盤を持つ写真文化にスポットをあてた「相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら」を平成13年から開催しています。この写真祭を、写真展を中心に様々なイベントを組み込んだ市民参加型の文化事業として開催することにより、質の高い都市文化の育成に努めます。  
また、市民文化財団と連携し、市民が優れた芸術、文化に触れる機会を育むための内外に向けた情報発信を行っています。

## 2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		17,900	
人件費		11,270	
市民一人あたりの事業費	50	44	
合計	30,764	29,170	

\*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

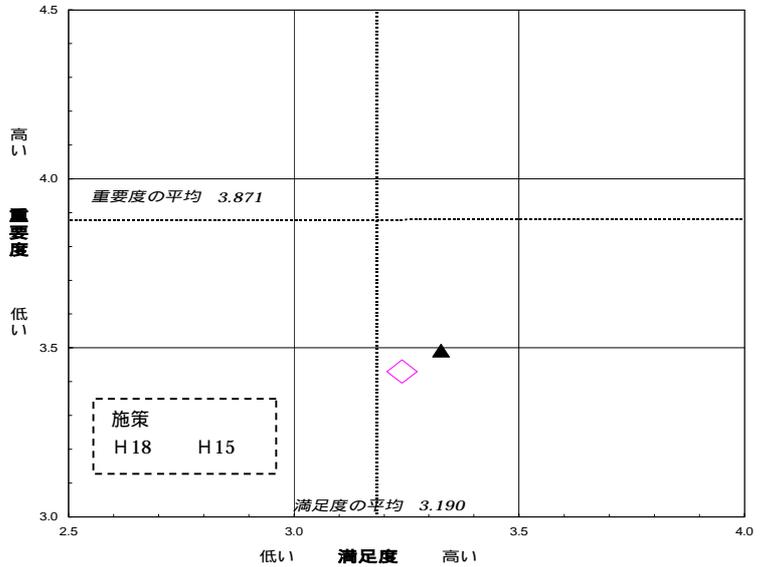
## 3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	フォトシティさがみはら「アマの部」応募作品点数(%)	「アマの部」 H16市民の応募作品数(455) / H16応募総数(3090) × 100	455件 14.7(%)	H16
指標2	フォトシティさがみはら写真展の来場者数(人)	フォトシティさがみはらプロの部・アマの部入賞作品展への来場者数	2,656(人)	H16
指標3	相模原市民文化財団HPのアクセス数(件)	相模原市民文化財団ホームページへの年間のアクセス件数	144,017(件)	H16
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)	
指標1	18.0	17.7	19	19.0	21	20.0	市民の写真をツールとした文化活動への参加促進
達成率	98.1						
指標2	3,000	2,222	19	3,500	21	3,800	写真文化のもつ芸術性、記録性の分野に関する観賞機会への市内外からの参加促進
達成率	74.1						
指標3	150,000	122,000	19	160,000	21	180,000	相模原市民文化財団のホームページにおいて提供する文化情報案内の利用促進
達成率	81.3						
指標4							
達成率	#DIV/0!						
指標5							
達成率	#DIV/0!						

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.240で51施策の中で17番目。  
 重要度は3.430で48番目である。  
 改善要望度は - 0.3467で48番目である。  
 年齢別にみると、満足度、重要度ともに70歳代でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。  
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位が下がり、重要度は大きな違いはみられない。  
 満足度の順位では、70歳以上を除く年代で前回調査より下がっている。  
 重要度の順位では、60歳代で上がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4②1	フォトシティさがみはらでは、プロ写真家の優れた作品の展示、紹介にとどまらず、アマチュアの写真愛好家に対しても公募という形で広く参加を呼びかけ、主体となって参加できる場を提供している。また、その中から優秀な作品を市のギャラリーで展示することにより、市民に観賞するという立場からも写真文化に触れる機会を設けている。開催から5年を経て、「アマの部」への市民による応募件数や写真展の市内外からの来場者の推移から、「新たなさがみはら文化」の創造、振興に向けて、今後より一層の魅力の付加を図る必要がある。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	④21	フォトシティさがみはらについては、開催から5年間の活動の実績により、社団法人日本写真協会から2006年度の「日本写真協会賞 文化振興賞」に選定されるなど、日本の写真界において広く認知されたといえる。また、総合学習の一環として位置付けられた「子ども写真教室」など、将来の写真文化の発展に繋がる萌芽を有する事業を実施している。また、市民文化財団のHPによる情報発信については、既存ページのリニューアルにより飛躍的にアクセス数を伸ばした経過があり、事業経費に比して「新たなさがみはら文化」の創造と発信に着実に寄与していると言える。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4②1	市内の文化施設への来場者の増加などから、芸術、文化への市民の潜在的なニーズは高いものと考えられる。今後もより一層の市民参加を促すとともに本市の魅力アップやさがみはらのPRなど情報発信に努める必要がある。	
合計		8	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	「新たなさがみはら文化」の創造と発信については、市民への認知度をさらに高め、全市的な盛り上がりを目指すとともに、より一層の市外への効果的な情報発信の強化を図る必要がある。
解決策	フォトシティさがみはらについては、市民がより主体となって運営に取り組める環境づくりを進め、市民参加型事業への転換を実現すること。また、「新たなさがみはら文化」のPRの強化に努めること。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

構成事務事業が一つだけであり、施策の成果を示すことが難しく、施策体系、構成事務事業の見直しが必要である。また、構成事務事業と設定された指標が適合していない。今後は、施策の目的を達成するための構成事務事業の見直しが必要である。	2次評価 B
--	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向



